平成２７年度教志会英語授業実践報告・研究会実施報告

京都外国語大学校友会教志会会長　田中　道博

平成２７年７月１９日（日）京都外国語大学に於いて、「授業の大技・小技―授業改善の工夫を求めてー」をテーマに実施した。

本年度は教志会 HP から直接参加申し込みが出来るように改善し、在学生を含む４４名が参加した。

京都外国語大学教授杉本義美先生は「英語授業の常識・非常識！？」の演題で講演を行った。“授業はシンプルであるべき”との主張に沿って、授業でのリスニング、内容理解活動、語彙指導、音読指導、予習を再考し、復習に時間をかける課題を与える復習中心の授業活動の具体例を示した。



懇親会は昼食を共にし、打ち解けた雰囲気の中で交流を深めた。





英語授業実践発表では、大阪府島本町立第三小学校原山太郎先生が「小学校外国語活動の現状」のテーマで発表を行った。担任、FLT、中学校英語教師が関わる指導体制、「コミュニケーションを意識した指導案作り等、小中一貫教育カリキュラム「しまもとスタンダード」の説明や児童の学習実態を報告した。





奈良県立香芝東中学校大澤伸好先生は「生徒に自信をつけさす学習法」のテーマで発表を行った。中学生は日本語と英語の語順の違いで混乱する。前から、意味の固まりごとに理解させ、英文の構造の理解を深め、また、音声指導では、ネイティブが自然の話す発音の仕方を指導している。教科書の内容を、文の構造を理解しながら、暗記して書く事（暗写）をさせ、テスト問題に反映させ、書ける楽しさと自信を付けさせている。

京都外大西高校三宅辰哉先生は「高校英語教育の変化」のテーマで発表を行った。大学入試の実態と求められている英語教育の改革の間の齟齬が深まる中、教室では補助教材やブリッジ教材に頼らざるを得ない現状がある。近年出版される学習図書は画一化が進み、選択の幅が狭まり、多様な学生のニーズに応じえていない。一方デジタル教材や、スマホアプリの開発で学習環境の変化が進んでいる。



新たな取り組みとして、実践報告に紙面参加を募り、大阪市立東三国中学校長名田正廣先生は、「大阪市の英語教育について」の発表を行った。

「英語イノベーション事業」を平成２５年度より実施し、英語でのコミュニケーション能力の育成を目指し、ネイティブスピーカーを活用した取り組みについて報告を行った。

参加者をグループに分け、実践報告を基にした研究協議を行った。後、各グループからの報告を行い、全体での情報共有化を図った。最後に杉本教授よりの講評があり閉会した。





本年度は小学・中学・高校からの授業実践発表があり、校種を超えた参加者の交流と俯瞰的に英語教育についての理解を深める事ができた。

ご指導いただいた相川真佐夫先生、ご支援をいただいた京都外国語大学、京都外国語大学校友会、ご講演者、実践発表の先生方、また、運営を手伝った２名の学生に感謝いたします。